



飯村医院

②⑥飯村医院 代々医・薬種業で大阪屋の屋号がある。大正12年(1923)建築



関薬局

⑦関薬局本店 角田屋の屋号があり、明治13年(1880)以降の蔵造り建築



本陣知久家

②②本陣跡 現在、鯉の「護語家」になっている。問屋と名主をかねていた。1873年、書院に小学校が開校された。



竹村家

②①竹村家 元石炭商。昭和初期の建築。



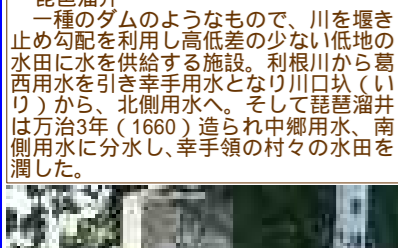
あさよろず

旅館朝萬 文政2年(1819)創業、板垣退助や伊藤博文らが宿泊した。



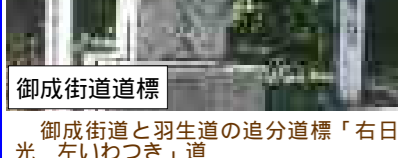
岸本家

岸本家住宅 国登録有形文化財 元醤油醸造業上屋の屋号で明治33年(1900)パリ万博銅メダル。現在は喫茶「上庄かふえ」



琵琶溜井

琵琶溜井 一種のダムのようなもので、川を堰き止め勾配を利用して高低差の少ない低地の水田に水を供給する施設。利根川から葛西用水を引き幸手用水となり川口(いり)から、北側用水へ。そして琵琶溜井は万治3年(1660)造られ中郷用水、南側用水に分水し、幸手領の村々の水田を潤した。



御成街道道標

御成街道と羽生道の追分道標「右日光 左いわつき」道



アベ洋品店

②④アベ洋品店 元菓子商で大塚屋の屋号あり、昭和11年(1936)建築



平井家

②③平井家 味噌増の屋号があり元米穀商。1922大正11年(1922)建築



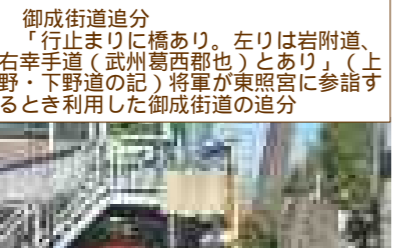
永文商店

永文商店 酒類販売業で荷さばき用のトラック「横町鉄道」がある



小嶋商店

小嶋商店 薪炭商・繭糸(けんし)商。昭和12年(1937)建築



御成街道と琵琶溜井

御成街道 江戸城から中山道を経由して、川口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。



高浜正寺

②⑧高浜商事 今もつづく肥料商で、昭和9年(1937)建築



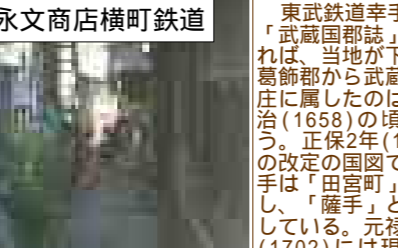
嶋田家

②⑤嶋田家 かつて鉄砲商で明治初期の建築



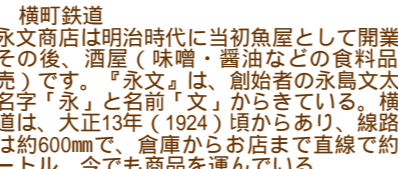
天神神社

天神神社 この付近が田宮の庄といわれ室町時代に、古河方足利氏の家臣一色氏が館を構えた跡といわれる。天神神社は創建は幸手庄の領主であった一色氏による。この神社は一色氏の館の鬼門に位置し、館の守護神として祀られたという。



永文商店横町鉄道

東武鉄道幸手駅「武蔵国郡誌」によれば、当地が下総国葛飾郡から武蔵国宮庄に属したのは、万治(1658)の頃という。正保2年(1645)の改定の国図では幸手は「田宮町」と記し、「薩手」と傍記している。元禄15年(1702)には現代の「幸手」となった。交通・経済・文化の遅れを、鉄道の開通で活性化した。



横町鉄道

横町鉄道 永文商店は明治時代に当初魚屋として開業し、その後、酒屋(味噌・醤油などの食品も販売)です。「永文」は、創始者の永島文太郎の名字「永」と名前「文」からきている。横町鉄道は、大正13年(1924)頃からあり、線路の幅は約600mmで、倉庫からお店まで直線で約70メートル。今でも商品を運んでいる。



太子堂

太子堂 上高野小学校は明治6年(1873)八坂神社(現上高野神社)梅林寺栄明宅において創立。明治11年(1878)太子堂を仮校舎として「上高野学校」が開校した。



石井酒造

石井酒造 天保11年(1840)創業

③①雷電神社 「村の鎮守なり。神体は七寸余の黄金なり。往古垂仁帝の十年、ある日天地振動して雷電頻に震ひ、此像田の中に下れり。よりに其処に宮を作りて田宮とよび、それより庄名にまで唱へぬ。此像黄金仏にれば盗難あらんことをおそれ、宝持寺に移し、旧地には観音・薬師・地蔵の三体を安置せり」(日光道中略記) 田宮の由来となった雷神が御神体で、幸手城主一色宮内少輔が奉納したといわれる。この雷電神社は別雷之命・配祀倉稲魂命・菅原道真の三柱を祭神とし、古くには田宮の庄幸手領の総鎮守であったが、明治維新後の明治6年(1873)4月以後は村社に指定されている。 豊峰木曾御嶽を模した築山がある。

③⑩幸宮神社 創建5400年以上の歴史があり、昔は八幡香取社といっていたが、大正3年(1914)に神社の合祀が行われたのを機会に、幸手の総鎮守となり幸宮神社と改めた。

幸手城 「一色宮内大輔城跡」(日光道中略記) 東武日光線の幸手駅周辺に南北朝期頃に一色氏によって築かれた城があった。「日光道中分間延絵図」をみると、一色稲荷神社の先、幸手駅あたりが水城だったと推測され、高台になっている。このあたりは低地だと思われるので、城の周りを川で囲んだ城だった。 幸手一色氏は足利尊氏の命により、九州探題として九州経営を任せられる一色範氏の子孫であり、鎌倉公方に仕えた。 公方が古河に拠点を移した後も重臣として歴代公方を支え、後北条氏配下に組み込まれた後、江戸幕府にも仕え改めて幸手に所領を与えられたが、下総国相馬郡木崎村に知行地を与えられ、その地に移住し幸手から離れていった。

祥安寺 「開基は新井平左衛門俊重、幸手宿名主右馬之助七代前の祖なり」と云(日光道中略記) 上高野村の心学者鈴木百淵の「大般若波羅密多経」がある

薬師堂 源頼朝の秘蔵の鷹が逃げ出し薬師堂の大樹にとまったといわれています。

祥安寺 開基は新井平左衛門俊重、幸手宿名主右馬之助七代前の祖なり」と云(日光道中略記) 上高野村の心学者鈴木百淵の「大般若波羅密多経」がある

志手川 「東海道分間延絵図」によると、志手川に舟を浮かべて漁をしていたようだ。「志手橋は板橋長拾九間、幅二間半程、(幸手)宿の入口にあり、水源は上郷村の恵水落にて一里程上、西大輪村、其外諸村の水落合て一流となり、末は庄内古川に落」(日光道中略記)

神明神社 「村の鎮守なり」(日光道中略記) 宝暦5年(1755)に伊勢皇大神宮を祀った神社であり、明治6年(1873)4月より旧幸手町の村社の一つとなっていた。今宮大杉大明神は「あんばさま」と呼ばれる大杉祭りが催され、神輿が担ぎ出される。境内社は複数あり、「稲荷大明神」・「聖徳太子堂」・「水神宮」・「菅谷山」・「成田山」・「今宮大杉神社」が祀られている。 水神様として祀られている神は、水神社のほか、水天宮、弁財天、九頭竜神、あるいは金比羅様や大杉様などがある。 またここには宿の入口として「高礼場」があった。 菅谷不動尊は田螺不動といわれ眼病の人がたにしを描いた絵馬を奉納し祈願すればご利益があるといわれている。明治初期の測量の凡号がある。

御成街道追分 江口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。

御成街道と琵琶溜井 江戸城から中山道を経由して、川口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。

御成街道と琵琶溜井 江戸城から中山道を経由して、川口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。

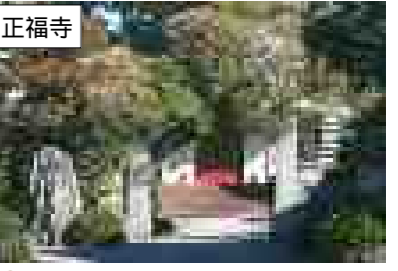
御成街道と琵琶溜井 江戸城から中山道を経由して、川口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。

御成街道と琵琶溜井 江戸城から中山道を経由して、川口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。

御成街道と琵琶溜井 江戸城から中山道を経由して、川口、鳩ヶ谷、岩槻を抜けて幸手に出る御成道は家光の時代に家康を祀る東照宮までの將軍社参の道として整備されました。



27 杉戸宿 ~ 幸手宿 埼玉県幸手市 上高野 ~ 幸手宿 (歩行距離 1939m 25分) 歩く地図でたどる日光街道 http://nikko-kaido.jp/ JZE00512@nifty.ne.jp



正福寺

③④正福寺 「松福寺 宿北西の方にあり。大門に大松樹あり」(日光道中略記) 本堂の前に義経窮餓の碑があり、天明3年(1783)の浅間山大噴火による大飢饉に際し、米や金を出して万福寺境内で施粥をし、幸手の民を救った21名の義人を讃えている。修行僧の教育をした修学機関である「談林所」があった。 將軍になる前の4代將軍家綱が、慶安4年(1649)の日光社参の時、宿泊したと『徳川実紀』にある。 「右こんげんどうがし 左日光道中」の道標がある。この道標は名物塩がまの先の追分にあったもの。



聖福寺四脚門

③②聖福寺 歴代の將軍が日光東照宮参詣のとき、休憩した。勅使門「唐破風四脚門」は扉に菊の文様がある。將軍・例幣使専用の門でした。將軍の間や勅使の間は、左甚五郎作と伝わる彫刻などがある。また、運慶作といわれる阿彌陀如来、 「呉服太物店 長島屋長六」とある長島屋の看板がある。この寺は豪商長島屋の菩提寺だった。 幸手を行はる橋の関 芭蕉 松風をはさみ揃ゆる寺の門 曾良 曾良は聖福寺の勅使門を詠んだとされる。



神明神社

神明神社 「村の鎮守なり」(日光道中略記) 宝暦5年(1755)に伊勢皇大神宮を祀った神社であり、明治6年(1873)4月より旧幸手町の村社の一つとなっていた。今宮大杉大明神は「あんばさま」と呼ばれる大杉祭りが催され、神輿が担ぎ出される。境内社は複数あり、「稲荷大明神」・「聖徳太子堂」・「水神宮」・「菅谷山」・「成田山」・「今宮大杉神社」が祀られている。 水神様として祀られている神は、水神社のほか、水天宮、弁財天、九頭竜神、あるいは金比羅様や大杉様などがある。 またここには宿の入口として「高礼場」があった。 菅谷不動尊は田螺不動といわれ眼病の人がたにしを描いた絵馬を奉納し祈願すればご利益があるといわれている。明治初期の測量の凡号がある。

「せき宿へ一里半」(五海道中細見独案内)

12 幸手一里塚 日本橋から12里の一里塚。幸手宿の入口志手橋を渡り直線道路の突き当たり正面が正福寺で右に「曲尺手(かねて)」している右角にある。案内板があるが痕跡はない。

③③一里塚碑

一色稲荷神社

③①一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑

③③一里塚碑